

理数科講演会 開催(10/17)

10月17日(金)に九州大学 理学研究院の教授で、国際宇宙惑星環境研究センターのセンター長をされている吉川顕正先生をお招きして、「宇宙に於ける爆発現象と宇宙天気科学の発展」という演題もとで講演会を行いました。

講演では、太陽フレアの仕組みやそれが地球のオーロラ現象とどのように関わっているか、さらに太陽の質量や黒点のでき方など、私たちの身近な太陽の中に秘められたダイナミックな現象について、わかりやすくお話しいただきました。



中でも印象的だったのは、「放射層から放たれた光が光球に届くまでに数万年もの時間がかかる」というお話をしました。太陽の内部で生まれた光が、長い時間をかけて外へとたどり着き、そしてわずか8分で地球へ届く。そのスケールの大きさに、生徒たちは驚きと感動の表情を浮かべていました。今回の講演は、生徒たちが科学の奥深さと未知の世界への好奇心を改めて実感する貴重な機会となって思います。

また、講演会のあとには「サイエンスカフェ」を実施しました。サイエンスカフェには、男女半数ずつの約20名が参加し、最初は緊張した様子も見られましたが、「せっかくの機会だから聞いてみたい!」という生徒たちの熱意が伝わってくる時間となりました。

生徒からの質問は、講演で抱いた疑問にとどまらず、「農学部や工学部と理学部の違いは何ですか?」「理学部では具体的にどのようなことを学ぶのですか?」「そもそも“学ぶ”ってどういうことだと思いますか?」「研究していくいちばんやりがいを感じる瞬間はいつですか?」「研究を続けるうえで大変なことは何ですか?」など、学部選びや学問そのものの意味を問い合わせする生徒が多く見られました。多くの生徒が、他の生徒の質問にも大きくうなづきながら、真剣な表情で聞き入っていたのが印象的でした。



また、中には自分たちが現在取り組んでいる研究についてアドバイスを求める生徒もおり、先生もそれぞれの質問に対して、専門的な内容もかみくだきながら、時にはご自身の高校時代や研究活動のエピソードも交えて丁寧に答えてくださいました。質問が途切れることはなく、サイエンスカフェは最終的に約2時間にわたって続きました。終了後、先生からも「高校生とここまでじっくり話すことができて、とても楽しかった」との感想もいただき、生徒にとっても、研究者の生の声に触れ、自分の進路や学び方を見つめ直す貴重な機会となりました。

普段の学校生活の中では、なかなか身近に感じにくい「理学部」という進路や、「研究する」「学ぶ」という行為そのものについて、今回のサイエンスカフェを通して少し距離が縮まったのではないかと思います。この体験をきっかけに、理系・文系にとらわれず、大学での学びや研究の世界に興味を持ち、自分の将来について考えを深めていってくれればうれしく思います。



SBSA九州大会に初参加！(10/18)

10月18日(土)に開催された「SB Student Ambassador 九州大会 (SBSA)」に、普通科2年生4名が参加しました。

この大会は、持続可能な社会の実現を目指すSBSAプログラムの一環で開催される大会で、SDGsに関する講演を聞いたり、ワークショップで議論したりすることで、サステナビリティへの理解を深め、2月に開催される「サステナブル・ブランド国際会議」へ繋がる大会です。本校普通科の探究学習では、地域課題解決型の探究活動を行っています。その2年生から公募・抽選で選ばれた4名が参加してきました。九州管内から32チームが大会に参加しました。



これまで普通科の取組としては、校外で行われる発表会以外のこのような大会への参加実績はなく、今回参加することになりました。他校生とともにワークショップで議論し、当日会場で他校生達とチームを組んで課題解決のアイディアを出し合い、発表するなど、「これぞ探究活動」といえる機会で、意識も、考え方も、行動も、変化するきっかけになったことでしょう。



グループワークでは、「持続可能な観光」についてのディスカッションでした。タイの観光についての講演を聞いた後に「九州に観光客を呼ぶための仕組みや商品を開発しよう」というテーマです。各県から参加している高校生と議論することで、宮崎県、都城の魅力も発信しました。



探究活動には、「世のため人のため」になることを、高校生でも発信できるという魅力があります。それをこのような機会に体験できた4名は、新たな視点を手に入れ、校内での「郷土探究」にも活かしてくれるでしょう。それが都城市のよりよい未来に繋がるのであれば…非常に嬉しいです。

授業改革PTによる研究・提案授業実施

10月27日から、本校では「研究授業期間」として、相互授業参観を強化する取組を実践しています。授業改革プロジェクトチーム(PT)では、1班3～4名の職員チームを編成し、班単位で授業を単元から作成し、全職員へ提案する取組です。様々な教科科目の教員が意見を出し合いする単元には、随所に「教科横断的なアイディアが溢れています」。「いざみ式探究型授業」は、このように生み出され、実践され、改善されていきます。経験年数や教科の垣根を越えた議論も、毎回悩みながら非常に充実しています！

